

車の運転手からの見え方です。
この中に何人いるか見つけられますか？



答えは5ページで！

山都町の未来図 ～みんなでつくる！安心安全のまち～

県下第6位 ～人口1万人あたり14.7人～

皆さん、この順位と数字が山都町の何を示すか分かりますか？

これは令和2年1月から8月末までの間に、熊本県内で人身交通事故（怪我のある事故）を起こした山都町の町民の人数を、人口1万人当たりの人数に換算した値です。熊本県内で山都町は6番目に事故を起こした方が多いことを示しています。

発生件数と1万人当たりの数値は、令和2年8月の段階で昨年1年間の数値を上回っています。昨年の数値を上回っているのは、上益城郡5町では山都町だけです。新型コロナウイルスの影響で外出機会が減っているにもかかわらず事故件数は増えているということが分かります。

	令和元年1年間		令和2年1月～8月末		
	発生件数	人口1万人当たり	発生件数	人口1万人当たり	昨年比
山都町	19	13.9	20	14.7	↑
御船町	40	24.4	22	13.4	↓
嘉島町	17	18.1	15	16.0	↓
益城町	97	30.1	33	10.2	↓
甲佐町	28	27.6	13	12.8	↓

山都町民が主原因となった県内での人身事故発生件数は過去10年間で振り返ると近年は減少傾向にありますが、ひと月に1～2回は人身事故が起こっている状態です。

山都町民が主原因 となった県内での 人身事故	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
	69	60	59	56	63
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
	46	33	39	24	19

今回の未来図では交通安全に関する特集を行います。ちょっとした心がけや、工夫で事故を起こす、事故に遭う確率を減らすことができます。普段の生活や運転中の様子を思い出しながらご覧ください。

熊本県内の人身事故はどのような場面で起きているのでしょうか？

令和元年中に熊本県内で起きた人対車両の人身事故のうち、道路横断中の事故が56.1%と半数以上を占め、さらにその約5割が横断歩道で発生した事故でした。

安全に渡るための横断歩道でなぜ事故が起きてしまうのでしょうか？

一時停止していますか？

横断歩道に歩行者がいる場合、車両は一時停止をしなければいけません。また、歩行者の姿が確認できない場合でも横断歩道の手前では減速しなければいけません。

JAFによる「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査」では、歩行者が横断歩道にいる場面で一時停止する車の割合について調査が行われました。

下の表のとおり、熊本県では4台に1台程しか一時停止をしておらず、4台に3台は横断歩道に歩行者がいても一時停止をしていない状況です。信号機がなかったり、手前から分りづらい横断歩道の手前には、標識やダイヤマークが設置されています。運転手の皆さんは、横断歩道のマークを見つけたら、歩行者がいるかもしれないと注意しながら減速し、横断歩道付近に歩行者がいる場合は、一時停止をしましょう。

熊本県	断歩道での一時停止率	一時停止率	九州内の順位	2019年から2020年の停止率の上昇率
	2019年	11.0%	最下位	233%
2020年	25.7%	上から4位	全国で4位	

安全な横断できていますか？

横断歩道を渡る際、手をあげていますか？横断歩道に立っているだけでは、車の運転手から気付かれにくい場合があります。横断歩道に立ったら、手をあげて、渡る意思を伝えましょう。

熊本県警の調査によると、手をあげることで車が止まりやすくなるという結果も出ており、車が止まる割合も25.8%から73.7%と約2.9倍も上がるそうです。

また、横断歩道をあとちょっとで渡り終えるとき、安心して歩みが遅くなっていますか？横断歩道では、最後まで気を抜かず渡り切りましょう。

やむを得ず横断歩道がない場所を横断する際は、しっかりと遠くまで車がないことを確認し、道路を垂直に、渡る距離が最短になるようまっすぐ渡りましょう。

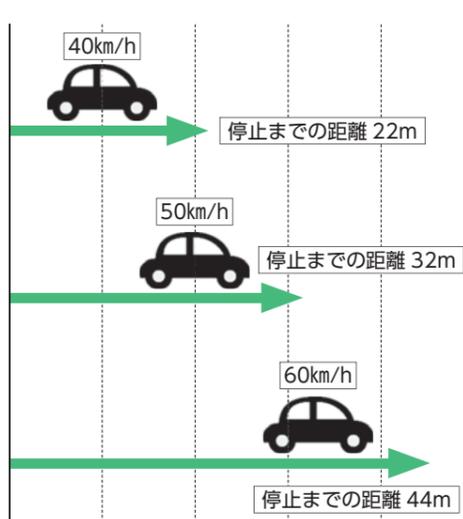
車は急には停まれない！

横断歩道の手前にダイヤマークがあるように、急には停まれない車のために、事前に標識や路面標示にて注意喚起が行われています。

では実際に自動車がブレーキを踏んでから停止するまでにどの位の距離が必要かご存知ですか？

イラストの距離は、乾いた路面で危険を察知してからブレーキを踏み停止するまでの距離です。雨の日など濡れた路面では、さらに約2倍伸びます。横断歩道で余裕をもって一時停止するためには、ダイヤマークや標識を見た時点からの減速がとても大切です。

では夜間に、車の運転手が歩行者に気付くのは何メートル手前でしょうか？



夕暮れ時はまだ大丈夫？

3ページの写真の中に何人歩行者がいるか気付けましたか？

写真①が歩行者に印をつけた写真です。これは夕暮れ時に手前から車のライトを下向きで照らした際の運転手からの見え方です。

まだ空がほんのり明るい夕暮れ時の時点で、車からはライトを着けていても歩行者に気付くことが分かります。歩行者から周辺の景色が見えていても、運転手からは見えていない可能性があります。辺りが暗くなったら出歩かないという高齢者の方の声も聞きますが、夕暮れ時から注意が必要です。

また、ブレーキを掛けてから車が停車するまでの距離を考えると、横断歩道上にいる人にこの時点で気付いていないと横断歩道の手前で停車することは難しいと思われれます。

写真②は歩行者が明るい服装、白色の持ち物、反射材を身に着け、車のライトを上向き（ハイビーム）にした時の見え方です。

歩行者の見え方が写真①と比べ、大きく異なることが分かります。このように、歩行者と運転者の両方が気をつけることで交通事故が発生するかもしれない環境が、安心して道路を利用できる安全な環境に変えることができます。



明るい服装って何色ですか？

服装の色や、反射材の有無で全く見え方が異なることがわかりました。外に出る際、少し心掛けるだけで身の安全が大きく変わります。夕暮れ時以降、外に出る際は、明るい服装や反射材の着用を心がけましょう！

では明るい色ってどんな色だと思いますか？赤色、緑色、青色、白色などを思い浮かべた方がほとんどだと思います。

写真③をご覧ください。ライトを下向きで照らすと、白色以外のいわゆる明るい色と黒色の視認性（見え方）に差がないことが分かります。

暗いところでの明るい色というのは白色、白っぽい色で、赤色や緑色は明るい色ではないということが分かりました。服装だけでなく、バッグや靴を白っぽいものにするだけでも効果があります。ただ、服装を常に明るい色にするのは用事によっては難しい場合もあると思いますので、夕暮れ時から夜間、外出する場合は、反射材を身に着けてピカピカと自分の存在を周囲に知らせ、自分自身を危険から守りましょう！

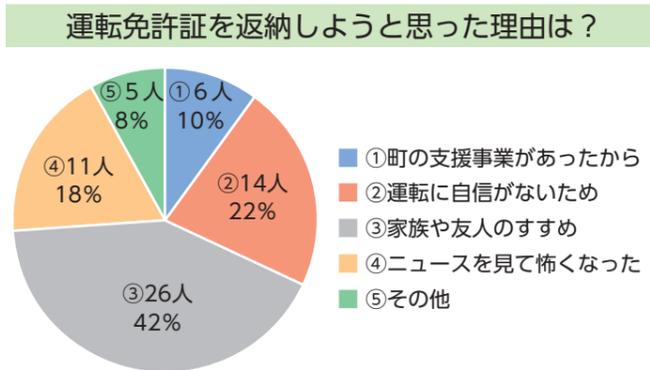


全国で高齢者を当事者とする交通事故が多く発生しており、山都町でも町内で発生した人身事故のうち高齢者の絡む事故が7割となっています。こうした背景のもと、高齢者の免許証自主返納が推進されています。

山都町では令和元年より、65歳以上の方で免許証を自主返納された方の、公共交通の利用促進と外出機会を創出するために、運転免許証を返納しやすい環境整備と返納後の支援事業を行っています。

平成31年4月1日から令和2年9月末時点で124名の方が免許証の自主返納をされており、うち90名の方が支援事業を受けられました。

今回、令和元年中に運転免許証を自主返納し、支援事業を受けられた方々へアンケート調査を実施しました。



アンケートの声より

- ・タクシー券はとてもためになった。
- ・1年の期限内に利用券を全部使いきることができなかった。期限を延長してほしい。
- ・免許証を返納して不便にはなったが、返納してよかったと思う。
- ・家族のすすめで返納した。不便になったけど仕方がないと思う。

70歳以上で、免許証を更新する際は、高齢者講習を受けなければいけません。高齢者講習の中で特に伝えられているのが、「身体能力の低下の自覚」です。若い頃に比べ視力や反射神経などが低下しています。視力の中でも動体視力（動きながら物を視る視力・動いている物を視る視力）については、ほとんどの方が若い頃に比べ半減しています。この動体視力は車の運転中、正面や横から車や歩行者が来ていないか、どの位の速度で近づいてきているかなどを判断するとても大切なものです。

この動体視力の低下により、安全確認をしても車や歩行者を見落としたり、対向車の速度を遅く感じ、対向車がいてもまだ大丈夫と思いつつ折したところ、遠くにいたはずの対向車が近くまで来ていてヒヤッとしたり、事故につながることもあります。それから、夕暮れ時や夜間の視力が低下しコントラスト（明暗の差）が分かりにくいことも忘れてはいけません。

また、視野（目を動かさずに見える範囲）が加齢とともに狭くなると言われていますが、運転中は中心部への注意が強く、周辺部については見落としがちになります。そのため、



梅田勇二 山都地区交通安全協会会長/矢部自動車学校代表

どんなに運転手が進行方向に注意を払っていても、周辺部分にあたる道路端への注意が疎かになり、道路を横断している歩行者（特に道路右側寄り）の発見が遅れ事故に繋がっています。これから先、日没が早くなります。車は薄暮時の早めの点灯、歩行者は、反射材の着用や明るい服装で、自身の存在を運転者に早く気付いてもらうことが大切です。

山都町では車は生活の一部で欠かせない存在です。高齢者の方に「いつまで運転しますか？」と尋ねると「自分の運転に自信がないと思ったら辞めようと思う」と話される方がほとんどです。若い方に比べると、長年運転してきた分、運転に自信があると答える方が多いです。車の運転に関しては身体機能の衰えには中々自分では気づかないものです。周りの方から「あなたの運転は危ないですよ」と言われたら素直に耳を傾け、運転を控えられたらと思います。

山都町の交通事故ゼロを目指して

二宮和也山都警察署長へのインタビュー

山都町へ赴任してまず、山紫水明、朝3月の雪に天上を見上げ、地を見れば川底まで見通せる澄んだ豊かな水などに感激しました。何百年何千年と大事に守ってこられた皆様の御苦労を感じながら、山都で仕事ができることを本当に良かったと感じています。

山都警察署では皆様の安全安心を守るため防犯対策と交通事故対策の2点に大きく分けて活動を行っています。

○交通事故対策・・・当署管内の人身事故は、高齢者の絡む事故が7割、国道での発生が8割となっています。そのため我々の対策は国道での事故防止を中心に行っています。事故発生状況分析に基づいた取り締まりを徹底するとともに、各種キャンペーン等を通じたドライバーや歩行者に対する注意喚起を行っています。交通事故は当事者のどちらかが気付いていれば回避できるものがほとんどです。ドライバーも歩行者も油断しないことが大切です。

私は、山都町は交通事故ゼロを実現できると感じています。町民の皆様は、薄暮時以降歩行の際は、明るい服装や反射材を確実に身に付けていただき、



二宮和也山都警察署長

交通事故防止に努めていただきたいと思えます。また、当署では年末の各種警戒を強化してまいります。

○防犯対策・・・全国的に高齢者を対象に発生している「電話で『お金』詐欺」については、金融機関やコンビニなどに御協力を頂き、何件も未然に防ぐことができていることは素晴らしいことで、山都町の皆様の防犯力の高さに感服しています。引き続き、高齢者が電話をしながらの不審な入金やプリペイドカード購入など、詐欺を疑う状況があれば警察署へ通報頂きますよう、御協力をよろしく願います。

これから年末は物流や人々の流れが活発となり、交通事故以外にも、高齢者を狙った「電話で『お金』詐欺」や子ども・女性に対する声掛け事案が懸念されます。お子さんに集団登下校を促し、防犯グッズの電池や使い方の再確認等をお願いします。

山都町の交通事故ゼロを目指して

山都警察署、山都地区交通安全協会と山都警察署、役場総務課ではドライブレコーダーを1週間貸し出し、車に装着・運転・録画してもらい、その後ドライブレコーダーの映像を見ながら安全に運転できているか自動車学校の教官や警察官で確認する取り組みを無償で行っています。

最近、運転しながら「びっくりした！危なかった！」と思ったことはありませんか？また、自分の運転や家族の運転を心配に感じたことはありませんか？運転に不安を感じたり、免許証を返納すべきか悩んでいる場合の判断材料として、お気軽にご相談ください。

問合せ先 山都警察署、山都地区交通安全協会（山都署内） ☎ 72-0110
山都町役場総務課 ☎ 72-1111

タクシーって高額な乗り物？

タクシーは高額な乗り物なイメージがありますが、自動車を所有するための維持費とどの位差があると思いますか？

町内のタクシー利用料金と軽自動車の1年間の維持費を比較してみました。

集落から中心部への片道5～7キロを往復で利用する場合と仮定して計算してみました。また軽自動車を200万円で新車購入し10年間利用する場合を想定しました。

タクシーを月4回往復で利用した場合： 約20,000円
軽自動車の1か月あたりの維持費： 約41,600円

タクシーの利用距離で変動はありますが、今回の試算ではタクシーの利用料金の方が安い結果となりました。

取材協力：JAF（一般社団法人日本自動車連盟）、山都警察署、山都地区交通安全協会、矢部自動車学校